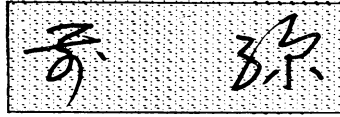


AIDJEX
(Arctic Ice
Dynamics Joint
Experiment)



用語解説 (17)

AMSG
(Ain Manage-
ment Sector
Group)

AIDJEX (エイジェックス) は、アラスカの北、北極海において、1973-74年に実施されようとしている大規模な海氷観測の計画で、アメリカの海水研究者の多くが参画し、カナダ、日本からも参加が予定されている。

北極海をおおっている海氷原は、大気および海洋の大循環に大きな影響を与えているが、まだそのメカニズムについては未知の点が多く、これを解明しようというのが、この計画の目的である。そのために、北極海における観測と数値実験のモデル開発が、この計画の二本の柱となっている。

本観測の実施は、1973-74年であるが、これに先だって、1970年から予備観測が行なわれている。予備観測のために北緯75度、西経148度付近の海氷上に観測基地が設けられたが、本年5月上旬に撤収された。

本観測は、つぎのような観測点のネットワークからなりたっている。まず、中心に有人観測基地があり、それを囲んで一辺が20kmの四方形に無人観測点が配置され、さらにその外側に有人観測基地が、四ヶ所、一辺100kmの正方形をつくるように設置される。そして、そのもう一つ外側に、一辺が約160kmの六角形に無人観測点をおく。

これらの各観測点では、その位置、気圧、風速が測定され、これに加えて、有人観測基地では、気象、海洋、海氷に関する観測が行なわれる。また、開水面、氷丘脈などの観測には航空機を用い、海氷の水面下の状態は潜水艦によって観察する。このような観測結果を総合して、海氷のレオロジー、北極海の熱収支と氷況との関係が明らかになると期待される。

なお、この計画について、“AIDJEX BULLETIN”という報告が、ワシントン大学海洋資源学部から継続的に刊行されている。(樋口敬二)

(OECD 環境委員会大気管理部会)

気象学の学術用語ではないが、今年9月20日から29日まで AMSG 東京会議が開かれ、大気汚染問題の討議が行なわれるので、簡単に解説をしたい。

OECD (Organization for Economic Cooperation and Development) 「経済協力開発機構」は1961年に欧州経済協力機構(OEEC)を改組して発足した。現在の加盟国はアジアでは日本だけで、西欧諸国、オーストラリア、米国など23か国で、その大部分が先進工業国で、元来これらの国の経済成長、開発途上国の経済援助、貿易拡大を目的とした機構である。近年環境問題が先進工業国の切実な問題となるに及んで、OECDの理事会の決定にもとづき1970年7月に環境委員会が設立され、経済発展をはかりつつ環境問題を解決する立場から、環境問題を科学的、技術的な観点に立つと同時に経済政策、産業政策を加えた広い視点から検討し、必要に応じて、各国のとりべき共同措置について勧告を行なうことになっている。現在、この委員会には大気管理、水管理、化学品、都市管理の4部会と、燃料消費による大気汚染、自動車の環境へ及ぼす影響、紙パルプ産業による汚染の3アドホックグループがある。

AMSG で最近とり上げられた問題の一つに広域にわたる越境汚染の問題がある。スウェーデンでは西欧の汚染源から排出された汚染物質とくにいおう酸化物が海を渡って降水に混じり、いわゆる酸性降雨の被害が出ることを訴えた。今後この種の国境を越えた広域汚染の問題がますます深刻化するおそれがあり、高煙突化などの従来の汚染対策の再検討が迫られている。

今回の東京会議では大気汚染の予報とモニタリング、いおう酸化物防止計画(脱硫)とならんで、光化学スモッグが新たな問題として討議されることになっている。

(河村 武)